学校番号	T0203

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	新数学Ⅰ（東京書籍）						
副教材等	教科書の内容に関連した別教材						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

１年次までに学習した内容を確認し，それを基に数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深めます。第１回授業時にファイルを配布します。授業プリントや問題プリントを整理し，各自復習等に用います。授業プリントで学習した内容を問題プリントで確認し，知識の定着を図ります。問題プリントは実施ごとに回収し，評価の対象とします。毎回，しっかりと取り組みましょう。授業への取り組み状況も評価の対象となります。遅刻や欠課をせずにしっかりと出席しましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
図形と計量及びデータの分析について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。

【思考力、判断力、表現力等】
事象を数学的に考察・表現する能力を培う。

【学びに向かう力、人間性等】
数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを主体的に活用する態度を育てる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	図形と計量及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	第3章　図形と計量	第1節　三角比 1. 直角三角形	a:直角三角形において，三平方の定理を利用して，辺の長さを求めることができる。	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・提出ノートの内容	・学習活動への取り組み ・課題 ・提出物の状況、ノート、プリント等
		2. 三角比	a:三角比は，直角三角形の辺の比であることを理解している。直角三角形において，正弦・余弦・正接を求めることができる。 b:三角比が三角形の大きさに関係なく，鋭角のみに依存していることを，三角形の相似から考察することができる。			
		3. 三角比の利用	a:三角比を利用して，直角三角形の辺の長さを求めることができる。 b:測量の問題に三角比を活用することができる。 c:直接測ることのできない距離を求めることに関心をもつ。			
		4. 三角比の相互関	a:sinA＝cos(90° －A) などの公式を利用することができる。 b:sin2 A＋cos2 A＝1 を三平方の定理としてとらえることができる。 c:三角比の相互関係を調べようとする。			
		5. 鈍角の三角比	a:鈍角の三角比の値を求めることができる。 b:拡張された三角比を，座標平面に図示して考察することができる。 c:鋭角の場合と異なり，鈍角の三角比が座標を利用して定義される理由に関心をもち，考察しようとする。			
		第2節　三角形への応用 1. 正弦定理	a:正弦定理における A=B=C の形の式を適切に処理することができる。 b:三角形の頂点から対辺に下ろした垂線の長さを，三角比を用いて表現し，正弦定理を導くことができる。 c:正弦定理の図形的な意味を考察しようとする。			
		2. 余弦定理	a:余弦定理を利用して，三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。 b:三角形の各辺を 1 辺とする正方形の面積を，三角比を用いて表現し，余弦定理を導くことができる。 c:余弦定理の図形的な意味を考察しようとする。			

		3. 三角形の面積	a:2 辺の長さとその間の角の大きさが与えられた三角形の面積を求めることや三角比と三角形の面積の関係に関心をもち，公式を導くことができる。 c:三角比と三角形の面積の関係に関心をもち，公式を導こうとする。			
後期	第5章 データの分析	1. データの整理	a:階級，度数などの用語を理解し，データを度数分布表にまとめ，ヒストグラムをかくことができる。 c:データを整理して全体の傾向を考察しようとする。	・定期考査 ・小テスト ・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・提出ノートの内容	・学習活動への取り組み ・課題 ・提出物の状況、ノート、プリント等
		2. データの代表値	a:最頻値，中央値，平均値の定義や意味を理解し，それらを求めることができる。 b:どの代表値を用いるのが適切なのかが場面によって変わってくることを理解している。 c:データの代表値から，その特性や傾向などを考察しようとする。			
		3. データの散らばり	a:四分位数の定義を理解し，四分位数を求めることができる。 b:四分位範囲や箱ひげ図をもとに，中央値の周りのデータの散らばり具合を比較することができる。 c:データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察しようとする。			
		4. データの相関	a:相関係数の定義とその意味を理解し，相関係数を計算することができる。 b:散布図をもとに，データの相関を考察することができる。 c:相関係数と散布図の関連に関心をもち，考察しようとする。			
		5. 仮説検定の考え方	a:仮説検定の考え方を理解している。 b:仮説検定の考え方を用いて，ある事柄が正しいかどうかを判断することができる。 c:身近な事柄において，仮説検定の考え方を活用して判断しようとする態度がある。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度